

2017年6月9日

## 課題発見ゼミへの期待 衣川クラス

1)

私が選択したいと考えるゼミナールは、衣川先生のIクラスだ。

私は、人前で公的に話すことや自ら行動を起こすことが苦手であり、短所である。しかし、この力は社会に出たときやこれからさらに大人として周囲から扱われたりすることなどを考えると、大学生活の中で身につけることは必須である。そのような私自身に足りない力を補えるようなゼミは数多くあるが、その中でもこのIクラスは、テーマ設定から発表までの流れを3度実践できる。さらに、私の興味のある「歴史」をテーマにしていることもあり、このゼミが最も私に適していると考えます。

2)

歴史に興味があって選んだ。過去を振り返ることで多角的な見方で物事を考えられるようになりたいと思った。グループ報告もたくさんあり、様々な考え方を持つ人との関わりを楽しみにしている。

3)

理由は、シラバスに書かれた「読むこと、書くこと、調べること、考えること、意見を述べること、意見を聞くこと、批判すること」といったことが、総合科学入門という講義を通してずっと求められてきたことだからだ。つまり、大学生活を有意義なものとするために必要な「考える」力と向き合うゼミであるからだ。また、歴史をテーマとするという点も興味深い。歴史というフィルターを通すことで、普段とは違う視点からモノ、コトを見る。それは多角的な思考に繋がる。

そうした大学生として、また、これから社会へ出ていく者としての思考獲得の手助けをゼミに求めたい。

4)

私は、将来報道編集に関わる仕事に就きたいと考えるのでこのクラスで論理的な文章の作成や別のアプローチで物事をみて考える力をつけたいと思いこのクラスを希望する

5)

私は課題発見ゼミナールで衣川クラスを選択しようと考えている。その理由は、これからの大学での学びの土台を形成したいからだ。また、大学での学びにおいて必要な能力は社会人としても求められるため、身に付けておくべき能力であるからだ。衣川クラスでは歴史という大きなテーマの中で、読んで課題を発見する、調べる、論理的に考える、報告、発表するなど、学びの土台として必要な要素が多く詰まっている。また、歴史をテーマとしているため、歴史的事象についての理解を深めながら上記のような能力の養成が可能である。そして、歴史的事象について学び、考えることは教養の一つでもある。以上が、衣川クラスを選択する理由である。そして、ゼミでは歴史的、社会的知見を深めるとともに、しっかりとした学びの土台を形成し、大学の授業や研究に生かしていきたい。

#### 6)

衣川先生のゼミは、歴史がキーワードとのこと。何年も前にはなるが、司馬遼太郎の著作を読み、感銘を受けた記憶が蘇った。歴史は私たちの生活に大きな影響を与え続けていて、現代もいずれは歴史の中で語られる時代となる。なおかつ、人は皆、生まれたときから自分の歴史を生き続けている。呼吸をしている今この瞬間も、過ぎればそれは歴史の一部である。

現在の世界情勢も、それぞれの国や文化の歴史を知ると、また違った切り口から見て、考えることができる。何故、今はこのような状況になったのか?という問いに、歴史は大きなヒントを与えてくれるからだ。

自分が生まれ、育ってきた日本についても、歴史という観点から観察し、自分なりの「この国のかたち」を捉えたい。そうすることは、日本の課題を解決するために重要であるし、日本の将来を描き、行動するときにも大切であるからだ。

衣川先生のゼミで自分がやってみたいことは、なにか一つの物事についての歴史を調べ、現代にどのような影響を与えているかを考えることだ。そして、そのことに関連する問題や課題を見つけ、どうすれば解決・改善できるか、そもそもの原因は何か、ということも探していきたい。

そして、ある国や特定の人々の間では、ある事柄について A という歴史認識をしているが、別のところでは同じ事柄でも B という認識をしている、という「歴史認識の違い」が何故起こるのか、ということも考察したい。なぜなら、そういった「認識の違い」は、一人ひとりの間の違いから始まり、それが拡大し、やがては国家のとるべき行動や方針についても大きな影響を与えるからである。歴史とは人類が歩んできた道のりであるが、それを捏造したり、あるいは歴史を武器にして争いを始めるきっかけにすることは、今を生きる人類として避けるべきである。そのことを念頭に、積極的にゼミに参加したい。

#### 7)

大学で身になることを学ぶために、自分に必要な考えることや、意見を述べることに重

点を置いて目的を持って授業に取り組めると思ったから。

歴史をテーマにして授業があるので、昔のことを知って現代と比較したりすることで自分のモノの見方や考え方などを変化させたい。

8)

私は今回衣川先生のゼミに入ろうと考えている。理由は二つある。

一つ目として、歴史を読み解く力を養うためである。歴史というのは文字や絵などによって後世に伝えられたものである。そのため歴史を学ぶためには、文字や絵についてを読み解き、理解することが重要である。現代で書かれている歴史に関する研究書も読むことは重要であるだろう。しかしそれより重要で、私が力をつけたいことは、当時の文献を読み解く力である。英語の文章と日本語訳の文章で少し表現が違うように、現代語訳と実際の当時の資料の内容とではニュアンスが少し違う点があるだろう。そのため、当時の文献を読んで理解することができるこのゼミを選んだ。

二つ目の理由として、文献から読み解く中での矛盾点や発見に気づく力を養うためである。私は衣川先生の日本の古代史の授業をとっている。その中で、資料の内容つまり史実の内容とはまた違う事実の可能性についてを教えてください。これは歴史を学ぶ上でとても大事な観点であろう。なぜなら、歴史というのはその時代の権力者や戦争の勝者によって書き換えられる恐れがある。そのため書かれている内容が事実とは限らないということがいえる。だからこそ、日本の古代史の授業のように史実とは違うことに衣川先生は焦点を当てて授業をしてくださるであろうという期待も込めてこの授業を選ぶ二つ目の理由である。

これらの理由から私は衣川先生のゼミで学び、歴史を学ぶための力を身につける。

9)

私は衣川教授のクラスに参加したい。その理由として、自分が歴史に興味があること、と、グローバル化の進む現代に必要な知識を得るためだ。

一つ目の理由として、私は歴史が大好きである。主に戦国時代を中心に文献を読み漁ったり、創作物の小説、歴史番組を見たりもした。親が大の歴史好きということもあり、小さい頃から慣れ親しんできた。また、歴史というのは人々の行為の積み重ねによってできている。当時は何も考えずにした一つの行為が、今になれば 180 度違った未来を作り出す可能性もあった事柄が沢山ある。私はそういった、先人たちの築き上げた歴史に深く興味を持つとともに人々の内面を推測し、歴史を自分なりに解釈して沢山の歴史を作り上げることに歴史の醍醐味はあると感じる。

二つ目として、グローバル化に対する自身のアイデンティティの確立のためだ。グローバル化と言えば聞こえはいい。人・物・お金などが自由に行き来する世界、国境のなくなった理想郷のように思える。しかし、それと同時に自国の文化・風習・思想までもなくな

っている。日本もその荒波に飲まれた国の一つである。着物を着る人は減り、アメリカからやってきたファストフード店に連日客が押し寄せ、お米ではなくパンを食べる。利便を追求した結果だと言われればそれまでだが、それで自分の国の文化を無くしては意味がない。自国の文化や思想は、自身のアイデンティティにもつながるからだ。特に日本は国が倒れることはなく、2000年以上にわたって続いている長寿国家である。その古き良き日本の文化が消えるということは、2000年分の現代まで続いている先人たちの功績が消えるということだ。グローバル化によって日本人であるというアイデンティティまで失ってよいわけがない。よって、私は衣川教授のクラスを受講し、総合科学部として多面的に観察する能力を養うとともに、グローバル化の進むこの社会に適応しうる、日本のプライドを持った国際人になっていきたい。

10)

このクラスを選択する理由として、私の将来の夢が大きく関係している。

私は将来国語教師として児童に国語の楽しさを伝えていきたいと考えている。

そのためには、正しい日本語の読み方や書き方を理解しなければならない。

歴史を踏まえて、それらを理解し、自分で考える姿勢を身に着けることができれば、きっと将来教師となった際に役にたつ。

11)

私は第一希望として衣川クラスを選択するつもりだ。私は将来中学校の社会科の教員になることを目指している。そのために、歴史を学ぶことは必須である。また、ただ歴史を学ぶだけでは教員になった際に生徒に上手く教えることはできない。歴史をあらゆる角度から考えることで、深く理解することにつながり、深く理解できたことは教える際に内容を分かりやすく伝えることに繋がる。また、この講義の目的に大学で学ぶ力を高めることが挙げられている。教員のための勉強ができ、大学で必要な力も身につけることができる。私にとって、これほどプラスな面が多い講義はないと考えているため衣川クラスを選択するつもりだ。

## 複数を選択

### + 葭森

大学は自分で課題を見つけて、解決に努めるところであり、そういう面が自分には足り

ないと自覚しているからである。

徳島を散策し発見をしていくことで多面的な物の見方が形成されて、これも今の自分には足りないことであると自覚しているからである。

この2つの面から今の自分に足りない、そしてやるべきことであると思ったから。

#### +熊坂・佐藤・山口

私は、二つのクラスのうちどれを選択するかで悩んでいる。

Iクラスを選択する理由としては、これから大学で学んでいく上で必要となる力を習得するための練習ができるからである。歴史という一つのテーマを通して自分が興味を持っていることを人にうまく伝える能力。相手の考えを読み取り、それに対して自分がどう思い何を伝えるのか。社会に出てからも必要となるスキルが、このクラスでは身に付けられると考えている。

Bクラスを選択する理由としては、障害という問題に対して心理学的観点と倫理的観点から考えられることに興味を抱いたからである。異なる視点から障害という問題をとらえ、それをグループで協力して研究し発表する。このクラスでは、多面的に物事を理解する能力と協力して作業をこなすスキルを習得することができると考えている。これらのスキルも社会人のは必須のスキルである。

どちらのクラスを第一希望にするかはまだ決まっていない。どちらにも自分が身につけなければならないスキルの練習があり、どちらも自分が興味を抱く分野である。しかし、抽選になる可能性もあるので、どちらになっても自分の成長のために必死で取り組んでいく所存だ。

#### +佐藤（健）

私が選択したいゼミは、衣川ゼミである。なぜならこのゼミでは、自分が必要とする論理的文章の書き方を、今後研究したいと考えている歴史と絡めて学べるからである。私は、相手に的確に自分の意見や考えを伝えられるようになることを目標の一つにしている。そのために必要不可欠なのは論理的に組み立てられた文章である。伝えたいことが私的であればあるほど感情的になりやすい。しかし、それでは相手を納得させることはできない。納得させるためには根底に理屈が通っている必要がある。したがって私には、自分の目標を達成するために論理的文章の構成力を養うことが必要なのである。そして、このゼミのテーマである「歴史」についても学ぶことで、今後の自分の研究の足掛かりになることを期待している。

もうひとつは、佐藤(健)ゼミである。このゼミではプレゼンテーション力を身につけることを目標にしており、それが自分の必要とする身につけたい力だからである。自分の考えを人に伝えるためには、プレゼンテーションの力が必要になる。この力が上がれば、聞きたいと思ってもらえる話ができる可能性が上がる。そうすればより多くの人に自分の考えを伝えることができる。また私は心理学を学び、専門的な知識を習得したうえで、相談に乗りの確なアドバイスができるようになりたいと考えていて、両方学ぶことができることも理由の一つである。

私が興味を持っているゼミは、佐藤健先生の心理学について学べるゼミと衣川先生の歴史の観点から読み書きの能力を培うゼミである。理由は、私が心理学や歴史の分野に関して興味があり、それらに関する仕事に就いたり、社会問題を解決したりするために専門的な部分まで学びたいと思ったからだ。例えば、殺人犯罪が起こっている原因をその事件の犯人の心の病に注目して心理学という観点から研究する。地域を活性化するために、その地域のヒト・モノなどの歴史から、人々が興味を持ち、集まってくるような歴史を研究する。また、シラバスに、「歴史は普通は目の前にない。意識して見直してみると今までとは違って物事が見えてくるかもしれない。」とあり、グローバル化という観点などとは少し違い、違う観点から見直しながら学習していくところに魅力を感じた。

## + 趙

私は、衣川先生のゼミか趙先生のゼミを選択したい。

衣川先生のゼミを選択したい理由は、歴史というこれまでの先人たちが積み重ねてきたものをより深く学ぶことで、歴史という長い時間と比較させて物事を考えることができるという一つの視点を手に入れることができるからだ。私はまだ現在と過去を結び付けて物事を考えることができない。だからこそ衣川先生のゼミで歴史について学び、歴史と比較させ物事を考えるという視点を得ることが必要である。また、歴史はその時その時の権力者が都合のいいように捻じ曲げてきた部分や、改ざんしてきた部分が多くある。そのことを念頭に置いて歴史を学ぶことで、真実を見極める力や安易に物事を正しいと考えない力も得ることができる。衣川先生のゼミに求めることは、自分で考える機会を多く与えてほしいということである。人から教えられるだけでは本当の意味で理解できたと言えることはできない。だからこそ、歴史というテーマについて自分で考え理解し、自分の力を伸ばしたい。

趙先生のゼミを選択したい理由は、グループでテーマを決めレジュメを作りプレゼンテーションをしてディスカッションをするという授業内容が、企画力や計画力を成長させる

ことができるからだ。自分たちが魅力を感じるテーマはひとりひとり違いうだろうが、その中でどれだけ全員が納得するもの、多くの人が魅力を感じるプレゼンテーションを行うことができるかは企画力や計画力が重要である。また、他のグループが魅力を感じたテーマにも触れ、自分たちだけでは気づかなかったようなテーマを知ること、より多面的に社会を見て考える力も得ることができる。趙先生のゼミに求めることはディスカッションの振り返りをするることである。ディスカッションについても振り返ること、それぞれが設定したテーマについてのより深い理解が得られるからである。

質問：衣川先生に質問があります。個人報告のテーマ設定はどの時代どの地域でも構わないのでしょうか？

### 十三浦

私は今、どの課題発見ゼミナールを希望しようか悩んでいます。そこで、気になるクラスの惹かれる理由について考えてみようと思います。

まず、自分の関心に一番近いのは衣川先生のクラスです。キーワードが「歴史」ということで、昔の書状や文字、文化などに興味のある私にはとても魅力的に映ります。今までに簡単な日本史の本を読んだり、大阪城博物館に行って戦国武将たちの書状を見に行ったりと、見るだけの浅い経験は積んできましたが、それを自ら掘り下げていくということはありませんでした。この機会に、それに挑戦すれば良いのではないかと考えています。

三浦先生のクラスも気になっています。「健康づくり」や「競技力向上」がテーマであり、私は「ジュニアアスリートの支援」にとっても興味があります。私自身、クラシックバレエをやっていることもあり、独学で解剖学を勉強したことがあります。自分なりの解釈ですが、身体の中の骨や筋肉の構造を知り、意識しながら動くことで、自分の身体をコントロールしやすくなります。結果、競技力の向上につながっていくと思うのですが、それはデータに基づいた見解ではありません。根拠のある意見を出す練習をするためにも、私にとってこのテーマはとっつきやすいものであると思います。

まだ時間はあるので、しっかりと考えて希望を出します。

私は小中高と運動部で自分の身体の管理をしていかななくてはならなかった。そのため、健康や筋肉などの身体機能などに気がついてきた。そして、大学でも運動部に入部したため、これを継続していきたい。そのために、健康や身体の機能のことについてもっと詳しく知る必要がある。

今について知るためには過去を知ることが大切だ。過去からどうなって今に繋がっているか、昔のどのような考えが今に繋がっているかを知ればもっと多角的に今を見つめるこ

と出来るからだ。例えば、政治について戦前の日本を知っていたら、共謀罪法案について意見を持つことが出来る。

#### +吉田

今回の授業は、後期の課題発見ゼミナールの説明であった。今回の説明を聞いて、私は吉田先生のクラス、もしくは衣川先生のクラスを選択したい。吉田先生のクラスをなぜ選択したのかというと、地域課題解決や社会イノベーションの基礎的事項を実践的に学ぶことが出来るからである。実践的に学ぶことによって、座学だけよりも、より詳しく学ぶことが出来る。衣川先生のクラスを選択した理由は、読むこと、書くこと、調べること、考えること、意見を述べること、意見を聞くこと、批判することなど、大学で学ぶための力を養成ことが目的であるからだ。大学で学ぶための力は必ず社会の役に立つ。なぜなら、大学で学ぶ力を養成し、大学で学ぶことで、社会に役立つ研究や課題解決などが出来るからだ。以上のことから、この二つのクラスは、すべてのクラスの中で、特に自分にとって、社会にとっても役に立つ授業ということが言える。

#### +内藤

I)自分の興味のあるものを深く調べ考えることができる珍しく貴重な機会だと思ったから。多面的な考え方や新しいものの見方を身に付けることができるから。

J)フィールドワークやボランティア活動が多いので実践的に学べるところに魅力を感じた。

食を通して自分の知らない世界の課題や真実を知ることが期待している。自分の将来に大いに役立つ気がしている。自分の中の当たり前をぶっこわしたい。また、第二候補としては、衣川先生のゼミ

#### +三浦+趙

第一希望:趙先生

高校時代、小論文の添削をしてもらっていると論文は感情で押し切ったらダメだと指摘されたことがある。自分は物事を感情的に捉えて表現してしまう癖がある。しかしそれでは社会に出てからは通用しないと危機感を覚えたから。またプレゼン能力や社会科学的な



思考を養うことでより自分が賢くなれると判断したため。

第二希望:衣川先生

私はこれまでに読書をほとんどしてこなかった。その結果、文系でありながら国語が苦手で大変苦戦した。大学生になり時間的余裕は増えたものの、どんな本に興味があるのかわからないまま本を読めていないので、純粹に本が読みたかった。そして並一通りかそれ以上に上手な文章を書く練習がしたいと思った。

第三希望:三浦先生

自分の身体機能を測りたいから。また自分もフェンシングのアスリートとして最低限の知識をわきまえておかなければならないと思ったから。しかし、これは自分の“好き”という感情が入っていて、最優先に身につけなければならない課題ではないと判断したため第三希望に下げた。

#### +上原+真弓

私が後期の課題発見ゼミナールで取りたい授業は、上原先生、衣川先生、真弓先生のクラスである。まず、上原先生クラスの原因を述べる。私は、2年生で公共政策コースを希望している。さらに、法律や裁判や法律に興味があり、将来裁判所で働くことも考えているので、事前学習をして知識を得たいからである。次に、衣川先生のクラスの原因として、現在一般教養科目で歴史の授業をとっていないので、率直に日本の歴史について学びたいと思ったからである。また、高校の時は日本史をとっていたので、その知識と結びつけて勉強でき、2年生以降で公共政策コースに入ったら文学や歴史を勉強できる機会が減ると思ったので1年生のうちに学んでおきたいと思うからである。さらに、グループワークを通して、コミュニケーション能力などを高めたいと思ったからである。最後に、真弓先生の授業の原因を述べる。将来公務員として働くことを希望していて、市役所や県庁で働くことになった時、統計データを用いることが多いと覆うので、大学生活の中で統計の知識を深めたいからである。また、自分の主観的な考えだけでなく、客観的データを用いて判断する能力を身に付けたいと考えているからである。

期待する授業については、まだ、同級生で話したことのない人面識のない人がたくさんいるので、少しでも多くの人と交流できたらいいと思う。

#### +趙+内藤

G(趙) 社会のしくみについて学びたいと思ったから。私は将来、公務員になりたいと考えているが、そのためにも必要であるし、一般教養としても重要であると思う。

I (衣川) 文系の学部にいるからには言葉の意味や歴史背景などをもっと突き詰めたいと思ったからだ。高校時代、日本史や国語の授業は好きだったので、もっと日本史や国語に詳しく触れたい。

J (内藤) 他の大学では出来ないことだと思ったから。私は大学では新しいことをしてみたいと思っていたので、狩猟をするという授業はとても魅力だ。地域の人とも関わりを持てるのもいい。